

# その15 船橋

(平成7年11月1日号—第178号)

辞書によると、船橋とは、川などに船やいかだをつなぎ並べ、その上に板を渡して橋がわりとしたものと説かれています。

平安時代、貴族が遊猟のため交野ヶ原を訪れるためには、今でいう船橋川を渡らなくてはなりません。しかし、橋を架けても流されてしまうことが多かったので、船を並べて橋にしたのだと考えられます。このことから、この地を船橋と呼ぶようになったといわれています。



24 二ノ宮神社(船橋本町1丁目)

船橋は、もともと本郷(現船橋本町地区)と枝郷(現南船橋地区)合わせて100戸余りの小さな集落で、その周りに田畑が広がっているという村でした。現在も、船橋本町は曲がりくねった狭い小路など中世の自衛村の面影を色濃く残しています。集落の北側にある二ノ宮神社は、船橋・養父・宇山の氏神で、江戸時代には三郷から、けんかみこしが出たそうです。

船橋川は、普段は水量の少ない川ですが、大雨が降ると急に水量が増し、過去何度も洪水を起こしています。天井川であることと、新田開発のために人為的に流路を変更したことが原因と考えられます。現在では、堤防も整備され、洪水を起こすことはなくなりましたが、時には大雨で、かれた川が大きく変貌することに変わりはありません。

船橋川は流路を変えても、いにしえ人から現代人まで、人々の暮らしを見詰めているように思います。



25 船橋川